

千葉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

命を守る見えない支え

船橋市立坪井中学校

第二学年

高橋 樹希

私は赤ちゃんの頃、川崎病という病気にか

かり入院しました。当時の記憶はありませんが、母から話を聞いたことがあります。高熱が何日も続き、すぐに病院で検査と治療を受けたそうです。川崎病は心臓に後遺症が残ることもある危険な病気だと知り、助けてもらえたことへの感謝の気持ちが強くなりました。

入院中は点滴や注射、検査が何度もあり、専門的な治療を受ける必要があったと聞いています。そのような高度な医療を受けながらも、家族が支払った医療費はごくわずかだったそうです。私が住んでいる自治体では医療費助成の制度があり、子どもの医療費は大部分が公費でまかなわれていたからです。母は「もし医療費が全て自己負担だったら、経済的にとても大変だった」と話していました。

この制度があったからこそ、私の命を守るために迷わず適切な治療を選ぶことができたの

だと思っています。

入院後も、私は小学六年生まで毎年心臓の検査を受け続けました。検査ではエコーや心電図などを行い、経過をしっかりと確認してもらいました。そのときも、医療費の自己負担は少なく、家族は安心して私を病院に連れていくことができました。医療のおかげで、今は後遺症もなく健康に過ごしています。

私は今回、医療費助成について詳しく調べてみました。厚生労働省の資料によると、小学生までの子どもには、ほぼ百パーセントの市町村で医療費助成が実施されています。中学生までに広げても、九十六パーセント以上の市町村が、何らかの助成を行っているそうです。

病院で診察を受けたり薬をもらったりするとき、「お金がかからない」と感じる人もいるかもしれません。私もそう思っていたことが

あります。でも、実際には治療や薬の費用を全て無料で受けられるわけではなく、自治体が代わりに払ってくれているのです。つまり、自分が受けた医療の一部は、税金によって支えられているということです。

税金は、みんなが安心して暮らせる社会を作るために集められています。医療助成もその一つで、必要な人が必要な医療をすぐに受けられるように支えてくれています。私は税金のおかげで小さな頃から命を守ってもらい健康に育つことができました。

これから私は成長し、大人になって働くようになります。自分が納める税金が、困っている誰かの助けになるかもしれないと思うと、税金には大きな意味があると感じます。また、税金が正しく使われるように、使い道に関心を持ち続けることも大切だと思います。

医療費助成を通して、税金の役割や社会のしくみを知ることができました。これからも身近なことから学び、明るい未来の支えになれるように納税という形で私も誰かを支える人になりたいです。